記　者　発　表　資　料
２０１７年１２月２５日
生　涯　学　習　部　図　書　館
町田市民文学館館長　吉川
電　話　０４２－７３９－３４２０

町田市民文学館ことばらんど「本をめぐる美術、美術になった本」展　開催

（左）夏目漱石『四篇』1910 年（右）二葉亭四迷訳『浮草』1908 年（装幀 ともに橋口五葉）（当館蔵）

インクの香り、ページをめくる時の紙の手触り。

私たちの「本」に関する記憶は、本文の内容は言うに及ばず、「本」を体感することによって形作られてきました。

「本」はその内容、すなわち作家の綴った「ことば」を伝えるための媒体です。しかし、本文を伝える手段がデジタル化された時、「本」は物体としての役目を終えるのでしょうか？

明治 20 年代以降、洋紙の開発と印刷技術の発展を背景に、和装本から洋装本へ、本の形態は劇的に変化しました。それまでの和装本は、横に積み上げられて保管されてきましたが、洋装本の登場によって「本」は書架に並べられる立体物として扱われるようになります。それ以降、立体物としての本は、実用性と美を兼ね備えたデザイン＝「装幀(そうてい)」の実験場となり、装幀家は常に「本」という限られた空間の中で、その内容をいかに効果的に表現するのか、という問題と対峙してきました。

本展では、著者と装幀家の幸福な出会いによって生み出され「名品」と呼ばれた装幀本から、蓑虫や白樺、竹の皮といった奇抜な素材を用いた「げて装本」まで、作品世界を表現するために「本」という限られた舞台で技を競った装幀家の仕事を紹介します。

「本」をとりまく環境と、「本」に対する私たちの意識はどのように変化してきたのでしょうか？作家とその装幀に携わってきた美術家たちの仕事を通じて、改めて「本」という存在を見つめ直します。

■ **会　　期** ： 2018 年 1 月 20 日（土）～3 月 18 日（日）
　※休館日 ： 毎週月曜日（2 月 12 日は開館）、2 月 8 日(木)、3 月 8 日(木)
■ **会　　場** ： 町田市民文学館ことばらんど 2 階展示室
■ **観覧時間** ： 午前 10 時～午後 5 時
■ **観 覧 料** ： 無料
■ **関連イベント**

【講演会】

① 池内 紀（おさむ） 講演会 「本は文明の旗だ！造本家・恩地孝四郎とその時代」
　日時:1 月 27 日（土）午後 2 時～4 時

② 岩切信一郎 講演会 「装幀クロニクル―夏目漱石からはじまる美本の世界」
　日時:2 月 11 日（日）午後 2 時～3 時 30 分

【装幀ワークショップ】

① 文庫本の改装体験
日時:2 月 17 日(土) 午後 1 時～4 時 30 分 ／ 定員:15 名(申込順)
参加費:1,000 円 ／ 講師:藤井敬子(製本家)
② 活版印刷とフランス装体験(2 日連続講座)
日時:3 月 3 日(土)午前 9 時 30 分～午後 4 時、3 月 4 日(日)午後 1 時～4 時
定員:16 名(申込順) ／ 参加費:1,000 円 ／ 講師:藤井敬子

【展示解説】 1 月 30 日(火)、2 月 6 日(火)、2 月 25 日(日)、3 月 18 日(日) 午後 2 時～

■ 展示構成

第Ⅰ章 夏目漱石からはじまる美本の世界
第Ⅱ章 近代文学の成熟とともに―多様化する装幀
第Ⅲ章 詩画集／第Ⅳ章「本」に魅せられた美術家たち